

環境影響評価の方法に対する交通部会見解(案)

○複合環境影響について

周辺事業との複合環境影響を踏まえた調査地点を定め、現況調査、予測の手法及び評価を実施すること。

○交通混雑について

1 現況調査、予測の手法及び評価の方法

(1) 現況調査

- ①協議・連携を想定している公共交通機関の輸送力及び乗車率等を調査すること。
- ②駐車台数が不足することはないとしているから、周辺駐車場の稼働状況等を調査すること。
- ③海外を含めた他の類似施設における交通混雑を緩和するための取組事例を調査すること。

(2) 予測及び評価の手法

- ①交通渋滞(渋滞長)の状況を調査し、駐車場への入出庫に起因する交通渋滞の影響も踏まえて渋滞長及び通過所要時間を予測し、評価すること。
- ②予測の前提となる交通計画を明確にし、想定される来場台数を見直した上予測すること。
- ③動的シミュレーションを用い、予測し、評価すること。

○交通安全について

1 現況調査、予測の手法及び評価の方法

供用後の歩行者の往来に起因する歩行者の交通安全の確保を追加し、試合終了後の観客の動線と、その混雑度予測、安全性に係る現況調査、予測及び評価を追加すること。

○付帯意見

1 環境取組について

- (1) 当該事業において想定される発生交通量に対する対応ではなく、事業者が発生交通量をコントロールし、可能な限り交通量を減少させるようなモビリティマネジメントの考え方に基づく、積極的な取組を行うこと。
- (2) 交通混雑及び交通安全に対する影響を低減させるために、事業者は関連機関と連携をとり、効果的な取組を検討すること。